



五 今月の江戸しぐさ「さしのべしぐさ」

江戸しぐさは、道徳観や倫理観を一つの言葉として表現していますが、その伝えたいことは深く、多くの意味をもっているものがあります。

「さしのべしぐさ」は人に親切にする、助けをするしぐさのことですが、

- ①親切にすることが真にその人の為になっているのか？
- ②親切にすることに邪心、上から目線はないか？
- ③親切にされる人が恥ずかしい思いをすることはないか？

等さまざまな「粹であるか」のフィルターがかけられています。医療は人に「さしのべる」ことの多い仕事です。

- ①患者の訴えを全て許容することが真に患者の為になるのか？
 - ②自分の医療、看護、介護行為に自己満足、上から目線はないか？
 - ③恥ずかしくさせない、さりげない患者へのアプローチがされているか？
- 等「粹」に人に対して「さしのべ」しているか考えてみてください。

時々、人にしてあげたことを自慢する人がいますが、江戸時代は粹の観念の無い下品な人間として軽蔑されました。

「さしのべしぐさ」をおまじないにすることによって、粹な親切ができる人になれるかもしれません。どうぞご活用を。

※幕末は西郷隆盛や勝海舟が信奉していた儒教の一派である陽明学の基本的な考え「知行一致」が重視されていました。例えば人に親切にする時に功名心などの邪心があったり、迷いがあった場合は世間はどう見えようが、自らを恥じていました。



日本の女性

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

6歳までに習得すべき事とされていました。

判断の基準は粹かどうかだったようです。

他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。

ロバート フレデリック ブラム
Robert Frederick Blum
(1857~1903)



日本をこよなく愛したアメリカ人画家。
江戸の風情が強く残っていた明治中期に約2年半訪れ、当時の息づかいさえ感じる作品を残してくれました。